

おいでん・さんそんSHOW 12月号

2018.12.01発行

特集 | 暮らしに生かす 自然のチカラ

第7回 いなかとまちの文化祭開催

街中
まちなか



長野県で馬耕(馬で田畑を耕す)を暮らしに取り入れる横山晴樹(よこやまはるき)さんと、馬のピンゴが会場を賑わせた

「暮らしに生かす、自然のチカラ」ミニシンポジウムでは、

ステージでは、旭地区で活動する「山里合唱団」のバンド「岡森フォレスト」の演奏などがあり、日々の暮らしを感じる言葉が音楽にのって届いているように感じました。



ミニシンポジウムの登壇者 左から洲崎燈子さん、鈴木辰吉、西村新さん、森由紀夫さん、今村豊さん、横山紀子さん、横山春樹さん

vol.49 勤労感謝

香風溪の紅葉に季節の移ろいを感じ、重ねた年を数える。65歳の今もミライを夢見て働けることに感謝しなければならぬ。日本には四季とともに暮らし

のリズムを刻む歳時記がある。11月23日は、勤労感謝の日。国民の祝日に関する法律では「勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあふ」とある。飛

鳥時代に始まる農作物の恵みに感謝する「新嘗祭」にいなめさじに由来し、1948年に国民の祝日となった。今日的意義は、農業のみならず、あらゆる「働く」が結び合って社会のために役立つことを実感し喜び合う日なのだと思う。

新聞には、某社長の「報酬50億円過少記載」による逮捕、外国人技能実習生の「週130時間勤務、月収9万円」、パワハラ対策

「暮らしに生かす、自然のチカラ」をテーマに、『馬の力』について長野県で馬耕(馬で田畑を耕す)をしている横山晴樹さんと横山紀子さん(うまや七福)、『木の力』について、今村豊さん(根羽村森林組合)、『竹の力』について、森由紀夫さん(木文化研究所)、『蜜蜂の力』については西村新さん(株)こいけやクリエイティブが登壇しました。



センター長のミライのフツに
向かって!

センター長
鈴木辰吉

法規制などの見出しが躍る。記事の意図とは別に、同じ人でありながらお金に置き換えた「働く」価値の格差に愕然とし、社会の営みや人が生きる上で「働く」ことの重みを思い知らされる。極端な経済優先の先には、格差とごちない人間関係の社会しか想像できないのである。

私たちが目指すのは、奉仕や家事、育児といったお金に置き換えられない「働く」も含め、働きたい人が思う存分働け、働く喜びが得られる社会。健康な人も障がいを持つ人も、女性も高齢者も外国人も、支え合って互いの能力を発揮し、働けない人を思いやる社会である。

勤労感謝の日に、スタッフはイベント対応、自分は東京出張。日を改め、心からの感謝を捧げようと思う。

イベント情報

子育て耕縁会『もっと子どもを好きになる』④

「子育て」は本当に難しいですよ。思うようにいかなくてイライラしたり、落ち込んだり、「これで良かったのかしら」と不安になったり。このような想いを抱いているのはあなただけではありません。多かれ少なかれ、どの親も同じような悩みは持っているのです。行き当たりばったりの子育てはもうやめにして、子育てに必要な考え方や技法などを一緒に学びましょう。4回連続講座の4回目ですが、今回だけの参加も可能です。

- 日時 | 2018年12月12日(水) 10:00~12:00
- 場所 | 足助社会福祉協議会まめだ館(豊田市足助町東貝戸10/百年草横)
- 内容 | 「パートナーにわかってもらえないのはなぜ?」より良い夫婦関係のために(夫婦脳・ホルモン・コミュニケーションなど)
- スケジュール | 10:00~10:30 笑いヨガ、ウォーミングアップなど 10:30~12:00 親育ち交流カフェ 13:00まで会場で昼食を食べることができます。
- ◎参加者同士が話す時間をたくさん取るようにします。ここで話された内容は「外に持ち出さない」というルールを守ることで、安心安全な場となります。
- 参加費 | 300円(お茶菓子付き)
- 定員 | 10名程度(先着順)
- 講師 | 鈴木佳代さん(アクティブ・ペアレンティング・ジャパン認定トレーナー、ラフターヨガ・インターナショナル・ユニバーシティ認定笑いヨガティーチャー、とよた市民活動センター登録団体『アティテューディナル・ヒーリングとよた』代表、豊田市親育ち交流カフェ講師)
- 申込・問合せ | おいでん・さんそんセンター小黒 TEL 0565-62-0610 FAX 0565-62-0614 mail: sanson-center@city.toyota.aichi.jp
- ※以下の申込み内容をお伝えください。件名『子育て耕縁会申込』①お名前②連絡先(携帯アドレス)③子ども同伴の場合は人数と年齢

NEW!!
新スタッフのご紹介

まつもと まみ
松本 真実さん

11月より一般社団法人おいでん・さんそんのコーディネートスタッフとして加わりました松本真実です。これまでは「日本の縮図=豊田市の、都市と田舎の人財・地域財産・経済・知恵がぐるぐる循環すると楽しいなあ」と妄想しながら、講座や講演会など「おいでん・さんそんセンター」の取組に参加者として関わってきました。これからはその循環を、個人の妄想ではなく、たくさんの方の想いをつなぐスタッフとして共に実現していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします!

その他の情報は センターHPをチェック!

REPORT 

トヨタ生協「原木しいたけ収穫と自然薯すりおろし体験」に50名参加

参加者と講師、両方の喜びにつながる

11月11日(日)、トヨタ生活協同組合の「原木しいたけ収穫と自然薯すりおろし体験」に、競争率3倍の難関を通過した17家族50名の組合員が参加し、紅葉が色づき始めた旭地区の笹戸温泉で秋の一日を満喫しました。

センターが自然薯産地の笹戸温泉振興会と原木しいたけ農家天野敬一さんをマッチングしたこのイベントは、食育と都市山村交流を目的に6年目を迎えます。

天野敬一さんは、原木しいたけ栽培で黄綬褒章を受章したこの道62年のプロですが、「自然を相手にしているの、決められた収穫日にきのこの発生を合わせるのは至難のこと」と言われます。ハラハラ、



大きなしいたけに嬉しそうな参加者と天野さん(右端)

ドキドキしながらこの日を迎え、すごい、おいしいと皆さんに喜んでもらえることが無上の喜びだそう。心ときめくことが89歳現役の秘訣のようです。(鈴木辰吉)



原木からもぎ取る様子



参加者のみなさんと記念撮影

REPORT 

トヨタ自動車(株)寮生会80人が竹林整備ボランティア

越戸町で「下越戸環境改善竹伐り隊」と

10月27日(土)、トヨタ自動車(株)寮生会80人が、越戸町で矢作川河畔の竹林整備を進める「下越戸環境改善竹伐り隊」らのメンバー64人と共にボランティア活動を行いました。

寮生会は、33ヶ所ある独身寮で運営する組織です。全寮で実施する地域貢献活動について相談を受け、猿投台地区の活動をご紹介します。猿投台地区では、河畔竹林の整備が課題で、猿投台地域会議が策定した「まちづくりビジョン・実施計画」に、整備計画が折り込まれています。しかし伐採の範囲が広く月2回の活動ではなかなか進んでいませんでした。

作業は、竹伐り隊と寮生が4人1組で行い、ノコギリで伐った竹を次々と空き地に搬出。およそ3時間で500本ほど堆積されました。寮生からは、「どんどん竹が山になり綺麗になっていく姿にやりがいを感じました」、「地域の方のパワーに圧倒されました」と感想がありました。(坂部友隆)



伐った竹を搬出する様子

REPORT 

「ママたちの子育て交流会inしもやま」開催

自治区を越えたつながりをつくるきっかけに

11月14日(水)、下山地区神殿町にある「まどいの丘」で、定住促進団体「里楽暮住(リラックス)しもやま会」が企画した「ママたちの子育て交流会inしもやま」が開催されました。

子育て世代の女性が自治区を越えて交流する場、相談できる人脈作りのきっかけづくりが目的です。ご要望をいただき、次世代育成部会で行っている子育て耕縁会の講座を出張で行いました。講師は、ラフターヨガ・インターナショナル・ユニバーシティ認定笑いヨガティーチャーでもある鈴木佳代さんです。笑いヨガ、講話の後、参加者同士の交流会が行われました。子育て情報が入りにくい、入園するまでどこに子どもがいるのか分からない、そもそも周りに子どもがいなという話題、交通の便の悪さも挙げられました。交流会の後、参加者が残ってランチ会を始めました。良いつながりができたようです。(小黒敦子)



話聞き入るお母さんたち

「馬は草を食べるとウンチをします。それが堆肥になります。馬の堆肥は田んぼにすくく良く、毎年収穫率が良くなっています。無農薬で苗を育て、馬と田んぼを耕します。全ての工程に手間をかけて、馬と一緒にやると喜びが増えます。毎日かまどでごはんを炊き、いただきますという時に幸せを噛み締めることができる毎日です。これはウマい!と。美味しさを数値化していい数字がでています。僕たちは馬耕という手段をとることの幸せを、他の人たちにも伝えたい。そのためここに来ています。都会の人が田舎に来るきっかけづくりをしています」。

木の楽しさを伝える
今村さんからは、「根羽村森林組合には製材工場があります。一般の人は柱などをただ見ても面白くないので、子どもたちが木に触れる機会を作っています」と、木の楽しさを伝えることに重点を置いている話がありました。
美しく高性能な素材
竹を加工した灯り作りをレクチャーしている森さんは「竹は美しい、非常に高性能な素材です。竹を新しい視点で見直すということをしたい」と話しました。
命のサイクルを作る蜜蜂
デザイナーでありながら、なぜ蜜蜂なのかと質問された西村さんは、「発行しているフリーペーパーで、蜜蜂の特集をしたのが、蜜蜂を飼うきっかけになりました。実際に蜜蜂を中心とした命のサイクルを感じています。蜂蜜がとれるので、レストランなどと料理を開発するコラボもしています」と答えました。
竹との付き合い方
会場を訪れていた曾根原宗夫さん(天竜川鷲流峡復活プロジェクト)は、長野県飯田市の天竜川沿いの竹林伐採の経験から「竹は、子ども達が伐採体験するのにも非常にリスクが低く、上手に付き合っていくのが大事だと思っています」というコメントがありました。
まちで自然のチカラを活かした暮らしを
コーディネーターの鈴木辰吉さん(おいでん・さんそんセンター)は、「都市でも田舎でも、住むところに関わらず、さまざまな形で自然と向き合うことができます。つながる」というのが、持続

可能な社会のキーワードだと思います。来年2月3日(日)に足助交流館で開催するいなかとまのくるま座ミーティングで『暮らしに生かす自然のチカラ』についても一度、皆さんと掘り下げて考えたいと思います」と話しました。
洲崎燈子さん(矢作川研究所)は、「豊田というのは街から、少し行ったところに美しい川があり、広い山があり、いい環境だと思います。今日お話ししていただいた方たちは、それぞれのスタイルで自然と親しみ、利用して、自然の中で生きています。街中でも自然のチカラを活かした暮らしは可能だと思います。今日のイベントを考えると、話して思いました。(田中敦子)



【上・左】ガムラン演奏グループ「スアラスクマ」
【上・右】農家が出店
【下左】新鮮な野菜が並んだ
【下・中】毎年出演しているパフォーマンス書道・風上会(ふかみかい)
【下・右】森で取れる素材を使った手作りワークショップ